

図表3 交流人口（2000年）（推計）

（単位：千人／日）

	札幌市	仙台市	広島市	福岡市	新潟市		静岡市	金沢市
					合併前	合併後		
①通勤（流入－流出）	22	64	28	159	41	9	24	35
②通学（流入－流出）	1	19	10	36	13	4	8	8
③買物	100	148	132	230	107	55	43	31
④業務 ※	19	28	27	46	9		13	18
⑤観光 ※	12	15	11	20	5		5	10
計	154	274	208	491	175	82	93	102

※：国土交通省は、全国を207の生活圏に分割し、生活圏間の幹線旅客流動（「生活圏間流動データ」）を調査している。当図表では、各都市が所在する生活圏に他の生活圏から流入する人口を交流人口とみなしている。なお同調査では、同一県から同一県への流入人口は集計対象外としている。

（出所）総務省「国勢調査報告」、国土交通省「全国幹線旅客純流動調査」、経済産業省「商業統計表」より政策銀作成

客（1千人／日）が非常に少ない。ちなみに、隣県からの来客は、福岡市で20千人／日、仙台市で17千人／日、広島市で13千人／日、金沢市で11千人／日、静岡市で4千人／日となっている。

このように、新潟市の業務関連の交流人口は、隣接県と交流が希薄で、首都圏への依存が極端に高い構造（首都圏の構成比：6割）となっている。

（注）同構成比は、地理的に首都圏に近い静岡市（5割）を除くと、他都市では1～2割程度となっている。

一方、観光関連の場合、新潟市内の観光資源の乏しさが、交流人口が少ない要因となっている。

（財）日本交通公社では、国内の代表的な観光資源約8千件を、特A（世界レベル）、A（世界レベル）、B（地方レベル）、C（地域レベル）の4つにランクづけ（1999年）している。

各都市のうち、特Aは、さっぽろ雪まつり（札幌市）、広島平和記念資料館（広島）の2件、Aは、YOSA K O I ソーラン祭り（札幌市）、仙台七夕まつり（仙台市）、原爆ドーム（広島市）、博多どんたく、博多祇園山笠（以上福岡市）、兼六園、金沢の街並み（以上金沢市）となっている。

観光関連の交流人口が最少の新潟市および静岡市は、特AまたはAに該当する観光資源を持たない。

新潟市周辺でこれに該当する資源は、佐渡(A)および弥彦(A)である。今後、観光客誘致のためには、こ

うした地域との連携強化が重要となろう。

4. 新潟市の強み・弱み

データやアンケートにより、6都市と比較すると、政令指定都市「新潟」の相対的な強み・弱みは、図表4のように整理される。

「強み」を一言で述べると、こんなに暮らしやすいところはなく、現状に満足している市民が多いということだ。

食べ物がおいしく、自然が豊かで、交通インフラが整備されており、住環境が良好で、互恵の精神が根付いている、こんな良いところはないというのが、市民の実感だ。

一方、「弱み」を一言で述べると、世の中が急速に変化する中、一層の弾力的対応が求められるということだ。

「都市選別の時代」を迎える中、他地域との連携が重要になっている。ところが現状は、「2. 新潟市のイメージ」で見たように、他県からの認知度は低く、また「3. 新潟市の交流人口」で見たように、首都圏を除けば他地域との交流は活発でない。

高齢化への対応も大きな課題だ。比較都市に比べ高齢化が進んでいる中、医療や福祉などのハード・ソフトの整備が追いついていない。

このように、新潟市民が、引き続き豊かな生活を送るために、「新たな変革」が求められている。